

地デジ移行と高齢者世帯

地デジ移行が1年後に迫り、画面に「UHF アンテナ設置工事は早い目に！」等のテロップがしきりに流れている。

カラーTVもBSもいち早く整えた自分を知る知人等は、我が家に来て「とっくに地デジと思ったのに…」と云われるが、周りから強いられるようなことにはあれこれチェックして納得しないと行動しないたちなだけに、国から強いられるのはどうも納得がいかないもので未だアナログ。

そもそも国の電波管理上のためなのに、TV視聴のためにかんがりの出費を全世帯に強いような政策なのだから、「子ども手当」よりも「地デジ手当」こそ出すべきと云いたい。

とは言え、いずれ地デジに移行しなくてはならないのであれこれ調べると、UHF用アンテナやBS用パラボラアンテナの工事やチャンネル設定等を業者に頼むと、TV購入にプラスして数万円の出費がかさむかも…とか。

今のパラボラアンテナを含めVHF/UHF共用簡易アンテナを自分が設置しただけに、我が家の地域は地デジ電波の強電域なので地デジ用TVを購入さえすれば、アンテナ工事が必要で経費がかさむ時は室内アンテナで十分だろうから、来年7月間近になっても大丈夫と思った。

また、仙台はUHF電波利用の2つの局の放送を視聴しているのでアンテナ交換も必要がないかも…とっていたが、パラボラアンテナも1993年に設置していたが「1996年以前のもは受信できないかも…」との案内もあったので、ある地デジ推進機関に問い合わせると「今のアンテナで受信状態を試してからの方が…」との応え。

調べての結果から地デジ移行はまだ1年先のんびり構えていたが、我が家のセカンドTVはONにすると画面は横線一本のみとダウンしたので、メインTVへの試行を兼ねてついに地デジ用TVを購入。

見事なまでに予想通り、従来のVHF/UHF共用簡易アンテナ、パラボラアンテナを一切いじらずに受信できた。

強要されることは納得できるまでトコトン調べる自分のようなたちはさておき、社会的注意喚起に拘わらず相変わらず振り込み詐欺に遭う高齢者が多いだけに、テロップや店員の言に地デジ受信設備に一抹の不安を感じて「全てお任せ」と要らぬ出費がかさむ高齢者世帯が多いのではないかと、ふと案じてしまう。

さて、アナログTVと地デジTVでは受信に約4秒の時間差が生じるが、どちらの時報が正確なのか？ どなたか、教えて下さい。